

クラブ国際奉仕活動事例推薦のご協力願いの件（参考資料）

活動内容の分類	平和と紛争予防／紛争解決、疾病予防と治療、水と衛設備、 母子の健康 基本的教育と識字率向上、経済と地域経済の発展、環境の保護から選択
活動の名称	補助金の記録：GG1743754 補助金の活動名：「El Paraiso Safe Childbirth Project」 ※クラブ通称「ホンジュラス・プロジェクト」
規模：国際奉仕活動の資金源	グローバル補助金 \$ 110,000 （約 1,200 万円） 地区補助金 _____円 クラブ単独資金（共同クラブ含む）_____円
活動のきっかけ・背景	2015/9 地区グローバル補助金セミナーに参加。このとき地区補助金委員会よりグローバル補助金事業の打診が有った。2015/11 に特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構(AMDA-MINDS) 理事長 鈴木 俊介様(財団学友) の卓話。「グローバル補助金を活用した国際奉仕の可能性－ホンジュラスの農村における母子保健分野の複合課題の解決に向けた一つの方法論として－」。地区財団補助金委員会委員長 菅原光志 PG の卓話「ロータリー財団について ー奉仕の実践がクラブの成長の基本ですー」（グローバル補助金事業についてもコメント有り）があり、2015.12 のクラブ理事会において、グローバル補助金事業にチャレンジすることを決定した。 その後、AMDA-MINDS 主催のシンポジウムでホンジュラス担当者との報告お聞きし意見交換を実施。また、海外青年協力隊としてホンジュラス共和国で活動をされた会員の知人に卓話を依頼して、ホンジュラス共和国についての見識を深めた。 会員による３度の現地視察を行い、エル・パライス県ダンリ中央病院や付近の保健センターを実際に視察。ホンジュラス共和国における妊産婦死亡率と新生児死亡率の高さと医療環境の把握や支援ニーズの確認、現地との調整を重ね、苦労の末にグローバル補助金の承認を得て事業がスタートした。
グローバル補助金を利用したおよその活動内容	①超音波診断装置（エコー）導入による、妊産婦死亡率及び乳幼児死亡率の改善（当面はその前提としてのエコー受診率の向上） ②超音波診断装置の使用法を含めた医師、看護師への研修と受診率向上のための保健ボランティアの育成 ③自立した持続可能な検診オペレーションシステムの導入（負担しやすい金額に設定した有料化）
地区補助金を利用したおよその活動内容	
クラブ単独でのおよその活動内容	

対象国と相手のクラブ	対象国名 ホンジュラス共和国 ダンリ RC ロータリークラブ名
開始までにかかった 時間と要した「のべ人数」	現地視察 3 回（延べ 6 名）1 回の視察に最低 7 日間を要す。 国内でも延べ 20 人以上が、事業開始までの間に関係各所との調整や、見識を広める活動に参加した。 クラブ理事会決定から RI の補助金承認までの期間は約 1 年。
活動の規模・頻度や 金額	2018.12 月の事業終了まで 11 回の現地視察（延べ 29 人）を行う。 視察にかかる総費用は補助金とほぼ同額かそれ以上と推察されます。 クラブとしても在日ホンジュラス大使館との関りや、大使の例会参加（3 回）。その他、事業に関連する卓話を数多く行い、国内で開催されるイベントにも積極的に参加してクラブ会員へのモチベーション向上にも努めた。 事業終了から約 4 年半経過して様々な環境の変化はあったが、導入したエコーや持続可能な仕組みは概ね稼働中との報告を AMDA-MINDS のホンジュラス駐在員より受けている。また、昨年には、医師、看護師に向けたエコーの診察の追加研修を行い、フォローアップを行った。 単発ではあるが、台風で破損した小学校の修復、保健施設の待機場所の改築（屋根の設置）、農業自立支援、小学校への受水槽設置も AMDA-MINDS と協力して実施した。 単発案件か継続案件??
困難だった事項や 反省点など	困難だった事項 国際ロータリー事務局及び地区ロータリー財団委員会に現地事情（危険性を含めた）を理解してもらうこと。 視察に地区補助金を使用できる可能性を知らず（ご案内いただけず?）、渡航を含めた費用負担が大きかったこと。 スペイン語圏のため、申請書等のスペイン語への翻訳。 現地視察及び事業実施の際の安全性の確保（公共交通機関は使えない）。 実施国クラブのモチベーションの維持。 視察のたびに変わる現地の状況（政治的不安定さ）。 在ホンジュラス日本大使館も含めた、現地の関係各所との信頼性の確保。 妊産婦へのエコー診断の必要性の周知。 医師、看護師のエコー研修（エコーを使用できる医師がほとんどない）。 そもそも、医師も少なく、看護師にもエコー研修を受けてもらい、山間部にクラス妊産婦のためにエコーを持参して出張診断を行い受診率の向上に努めた。 エコー機器の選定（あえて日本製でなく、現地でのメンテナンスが可能な中国製で運搬のできるタイプを現地購入して導入した⇒持続可能な状態）。 現地の電力事情の脆弱性（基幹保健施設にディーゼル発電機を追加導入）。

	反省点 今回の事業が無ければ、恐らく直接的にかかわる可能性の低い、中米のホンジュラス共和国との事業を通じて、多くの味わいと、日本では考えられない様々な困難な状況に、その一つひとつを解決することによって、様々な事を学び経験することができた。 しかし、ホンジュラスまでの距離や持参の関係で、会員の多くの時間とお金を費やすこととなった。 グローバル補助金事業を行う上で、補助金で賄うことのできない費用は、事業の実施には避けては通れない部分です。地区からの手厚い援助があればチャレンジするクラブが増えてくるかもしれません。
クラブ名 <u>相模原橋本</u> <u>ロータリクラブ</u> 担当者 <u>吉水清孝</u>	